



龍谷大学 × 大津市

おおつ未来まちづくり学生会議

環びわ湖・地域コンソーシアム [大学地域連携課題解決支援事業 2014]



本市では、平成29年度から始まる次期総合計画の策定に向け、学生の率直な意見を聴くため、「おおつ未来まちづくり学生会議」を立ち上げ、龍谷大学のご協力のもと開催させていただきました。

龍谷大学はこれまでより地域に根ざした活動をしてこられ、本市ともさまざまな分野で連携・相互協力し、本市の活性化とまちづくりに大いに貢献されてきました。

本市は、まちづくりの基本方針の1つに「大学を生かしたまちづくり」を掲げており、龍谷大学を始め7大学と協力協定を締結し、これらの協定に基づき、知的資源の集積である大学との協力・連携事業を推進しております。

その一環として、今回の会議は学生の皆さんに、ワークショップやまち歩きを通して、大津の魅力や課題を探り、未来の大津の将来像について提案していただきました。将来の地域を担っていく若者ならではの視点や感性を、これからの計画策定に活かしてまいります。

学生の皆さんは、今回の活動を通じて、地域社会の課題や可能性を学びつつ、大津を身近に感じていただけたものと思います。これからも、大津のまちについて考え、そして応援いただきたいと思えます。皆さんがこれから益々活躍されますことを期待しております。

「おおつ未来まちづくり学生会議」の開催にあたりまして、龍谷大学の脇田教授、龍谷大学エクステンションセンターの皆様大変ご協力いただいたことに感謝いたします。



2015(平成27)年3月
大津市長 越 直美

おおつ未来まちづくり学生会議とは (おおつ未来まちづくり学生会議参加のしおりより)

1) 会議の目的と役割

次期総合計画策定に向け、大津市では様々な市民の意見を聴取し、まちづくりの姿勢や、将来のまちのビジョンを具現化していこうとしています。その一環として、若者のまちづくりに関する様々な意見を聴取する機会として、学生会議を開催します。

大学生である皆さんが、自ら大津市を知り、学び、考えた結果、大津市の将来像について若者らしい想像力豊かなアイデアを交えて提唱してくれることで、大津市としての新たな気づきに繋がっていくことを期待しています。

皆さんの発表の成果は、大津市のホームページに掲載する予定です。また、次期総合計画策定時の「総合計画審議会」に資料として提出することも検討しています。

2) 学生会議って?

おおつ未来まちづくり学生会議は、

1. 大津市の未来を「住んでいる人」の立場になって考える。
2. 大津市の未来を「住もうとする人」の立場になって考える。
3. 大津市の未来を「訪れる人」の立場になって考える。
4. 大津市の未来を「30歳の自分」の立場になって考える。
5. 大津市の未来を「本気で良くしたい!」と思って考える。

大学生だけの会議です。

3) どんなことするの?

大津市のことを、とにかく考えます。最終発表で、「大津市のまちは〇〇年後にはこうなります!」と言ってもらいます。

4) どんな風にやるの?

- ① 大津市のことを知ります。
- ② 大津市のことを見て歩きます。
- ③ 大津市の良いところ、悪いところを考えます。
- ④ 大津市の将来像を創造します。
- ⑤ 大津市の未来を発表します。

5) スケジュール

	平成26年	テーマ
第1回	7月10日(木)	おおつを「知る」
第2回	9月12日(金)	五感を使ったまち歩き
第3回	10月17日(金)	おおつの「いいね」を考える
第4回	11月18日(火)	理想のおおつをつくらう!
その他	12月20日(土)	①「大学地域交流フェスタ」にて活動報告実施
	12月22日(月)	②市長とのランチミーティング実施

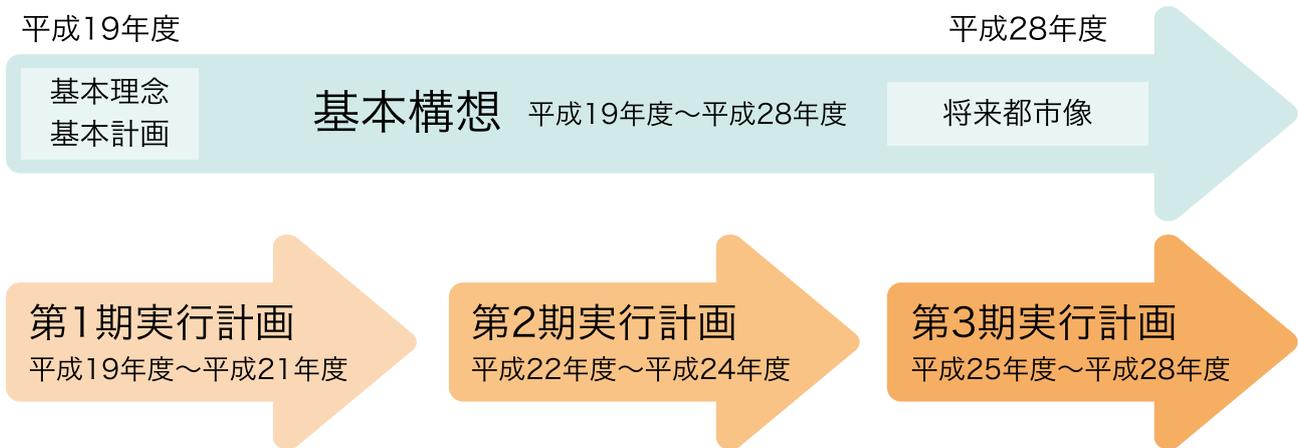


大津市の総合計画について

大津市の行政を総合的かつ計画的に推進していくための全体計画のこと。市の計画における最上位計画といわれています。

「基本構想」と「実行計画」から構成されています。

大津市総合計画の構成と計画期間



将来都市像

人を結び、時を結び、自然と結ばれる ^{ゆい} ^{こと} 結の湖都 大津

基本方針

次代を支える

「ひとのつながり」を創る

- ◆ 子どもの笑顔が輝くまち
- ◆ 安心、安全に暮らすことのできるまち
- ◆ 希望に満ちて、生き生きと暮らすことのできるまち
- ◆ 互いを認め、支えあうまち

次代を担う

「まちのにぎわい」を創る

- ◆ 活力と魅力に満ちたまち
- ◆ 古都の風格と新しい感性がともに息づくまち
- ◆ 個性を発揮し、自分らしく活動できるまち
- ◆ 快適で利便性の高いまち

次代へ引き継ぐ

「自然のうるおい」を創る

- ◆ 自然を守るまち
- ◆ 水と緑の癒しのあるまち
- ◆ 資源を大切にするまち
- ◆ 自然に学び、自然を楽しむまち

おおつ未来まちづくり学生会議

第1回会議 開催報告

開催概要

日 時： 2014 (平成26) 年7月10日 (木) 13:30~17:30

場 所： 旧大津公会堂多目的室

参加者： 龍谷大学瀬田キャンパス学生11人(1人欠席)、龍谷大学 社会学部 脇田健一教授、龍谷エクステンションセンター職員、大津市職員(企画調整課、都市計画課)

テーマ： 大津を「知る」

第1回会議 次第

- ・ 参加証・学生委員グッズ (Tシャツ) の交付
- ・ 政策調整部政策監の挨拶
- ・ 自己紹介
- ・ アンケート記載
- ・ オリエンテーション
- ・ アドバイザー龍谷大学社会学部 脇田教授の講演
- ・ 大津市の市政概要について
- ・ グループ分け
- ・ グループワーク
- ・ 次回の日程

内容

2人一組での自己紹介、オリエンテーション、脇田健一教授による講演、大津市の概要説明のあと、「グループワーク」を行いました。

グループワークでは、学生と市職員が「ひと」「自然」「まち」の3グループに分かれ、思いつくキーワードや気になることを紙に書き、模造紙に貼っていきました。キーワードや大津の地図を見ながら、次回のまち歩きの場所の設定などを話し合いました。

4時間に及ぶ会議でしたが、学生たちは集中力を切らすことなく、わいわいと楽しく熱心に取り組んでくれました。

次回は9月12日の「まち歩き」、それまでは個人やグループで、本日の会議で出た課題に取り組むことになりました。



当日の様子

- ・ 参加証・学生委員グッズ (Tシャツ) の交付
- ・ 参加証と、活動で着てもらおうオリジナルTシャツを学生に渡しました。
- ・ 政策調整部政策監の挨拶



自己紹介

- ・ 同じ大学とはいえ、知らないメンバーがほとんどです。
- ・ 自分を表す「キーワード」を書いた紙を持ち歩き、市職員、龍大の職員も混ざって2人1組での1分間PRで全員と自己紹介。
- ・ 「おおつ光ル君大好き」な学生や、「お野菜大学」を主催する学生も。個性豊かなメンバーが揃いました。

アンケート記載

- ・ 学生が大津市についてどんな思いを持っているのかのアンケートを行いました。大津が好きか、住みやすいか、まちのイメージなどの内容です。
- ・ 会議終了時にも同じアンケートを行い、学生の意識がどう変化したかを比較します。

オリエンテーション

参加にあたっての目的、心構え、スケジュールを企画調整課より説明しました。



アドバイザー 龍谷大学社会学部 脇田教授の講演

アドバイザーの脇田先生から、大津の魅力やまち歩きにあたってのお話をいただきました。

先生は龍大にいられて11年。大津エンパワねっとや、湖西地域での農村活性化など、大津の地域に根ざした活動をされています。



お話の内容

- ・ 大津市は南北に長いまち。行政では行政効率が悪いなどマイナスに捉えがちだが、逆に様々な要素がぎゅっと詰まり、多様性のある町だとも思う。
- ・ 学生らしく、常識にしばられず、役所では思いつかない、大人がハッとするような視点を。
- ・ まち歩きでは色々な発見をして欲しい、ちょっとひっかかるものがあればどんどん質問や記録を。
- ・ まちづくりでは、いろんな立場の人を尊重し、聞き上手になることが大事。

大津市の市政概要について

- ・ 市職員より、人口や産業構造、まちの特色などを説明。
- ・ 大津の有名なイベントは何?と学生に尋ねる場面も。



グループ分け

- ・ 大津市の現総合計画のまちづくりの基本理念である「人」「まち」「自然」の3つのテーブルに分かれ、思いつくキーワードを書いて貼っていきました。
- ・ 全員が各テーブルを回った後、自分が一番気になったテーブルに入ってグループが決定しました。



グループワーク

- ・ グループに分かれて、キーワードをもとに、大津の地図を見ながら、次回のまち歩きの場所を考えました。

次回の日程について

- ・ 次回は9月12日（金）にグループでまち歩きをします。
- ・ それまでに、グループでおおつの町について調べたり、気になる写真を撮ったりする夏休みの宿題もあります。
- ・ 秋の発表に向けて、みんなで楽しく頑張っていきましょう。

おおつ未来まちづくり学生会議

第2回会議 開催報告

開催概要

日 時： 2014 (平成26) 年9月12日 (金) 9:00~18:00

場 所： 大津市内をまち歩き (まちグループ:坂本・石山、自然グループ:志賀地域、ひとグループ:膳所~三井寺) の後、龍谷大学RECホールにてまとめと発表

参加者： 龍谷大学瀬田キャンパス学生12人 (全員出席)、龍谷大学 社会学部 脇田健一教授、龍谷エクステンションセンター職員、大津市職員 (企画調整課、都市計画課、商工労働政策課)

テーマ： 五感使ってまち歩き

第2回会議の内容

- ・ 3グループに分かれて大津市内をまち歩き。
まちグループ:坂本・石山 (商店街中心)
自然グループ:志賀地域
ひとグループ:膳所~三井寺
- ・ 龍谷大学に戻って、まち歩きの振り返り、まとめ
- ・ グループごとに模造紙にまとめたものを発表
- ・ 脇田教授より講評

次回の日程について

次回は10月17日 (金) に、今回のまち歩きで気づいたことを深めながら、未来の大津に向けた提言をつくる作業に取り掛かります。

内容

7月に開催した、第1回の会議にて「ひと」「まち」「自然」の3グループをつくり、まち歩きの場所を設定。この間、グループで集まりまち歩きをする地域の課題を討議し、訪問先でのインタビュー内容等を考え、本日のまち歩きを実施しました。グループごとにそれぞれ地域を歩き、インタビューしたり写真を撮ったりした後、夕方に龍谷大学で全員が合流。まち歩きをしたことで気づいた大津の特色などについてグループごとに整理をし、グループテーマの課題点を整理、そして、グループごとに発表を行いました。

実際に自身の足を使って「まち歩き」をすることによって、普段は気にも留めない大津市の「すごい!」「いいね!」の発見がたくさんありました。また、大津市で働かれている方、住まれている方に直接話を伺うことで、学生たちの大津市に対する理解が深まった様子です。

次回、第3回の「おおつ未来まちづくり学生会議」は10月17日 (金) です。そこで、大津市の「いいね」を出しあい、11月に開催するプレゼンテーションに向けて準備を進めていきます。

当日の様子

まち歩き「まちグループ」

- ・ 観光地とその周辺にある商店街の関係に着目し、旧竹林院などがある「坂本」(商店街、旧竹林院)と「石山商店街」を訪問。
- ・ 坂本ではおもむきのある石畳を歩きました。リニューアルしたばかりの旧竹林院や、滋賀院門跡を見学し、じっくりお話を伺いました。
- ・ 次は石山駅まで移動して、商工労働政策課の商店街担当者に話を聞きながら、石山商店街を歩きました。



学生メンバー5人で



石畳の道は
気持ちよく歩けます



旧竹林院の前で



石山駅・石山商店街



石山駅・石山商店街

まち歩き「自然グループ」

- ・ 自然豊かな志賀地域をセレクト。近江舞子駅をスタートし、「近江舞子水泳場」、「ほっとすていしょん比良」、「びわ湖パレイ」を訪問。
- ・ 志賀地域に新たにできる「道の駅 妹子の郷」の話を商工労働政策課の職員に聞いたり、地域の農産物を使った食品作りやカフェを営む「ほっとすていしょん比良」の山川さんとお話したりしました。
- ・ びわ湖パレイ山頂で山裾を見下ろしながらランチ。びわ湖パレイの社員さんからも話を聞きました。



白砂青松の
近江舞子浜



ほっと
すていしょん



学生は4人



びわ湖パレイ山頂



社員さんの話を伺う

まち歩き「ひとグループ」

- ・ 膳所駅をスタート。徒歩で旧東海道を浜大津に向かいました。訪問先は、「NPO法人マイママhouse」、「子育て総合支援センターゆめっこ」、「大津市立図書館」、「三井寺」。
- ・ このグループでは、積極的に市内施設の利用者や職員にインタビューを行いました。
- ・ 三井寺でインタビューをしていたら、キャラクターのべんべん登場！
- ・ 人のつながりを中心に、貴重な生の声を聞いて回りました。



旧東海道沿いには古いお店が



ゆめっこにて所長のお話



学生メンバーは最少の3人



観光客にもインタビュー



べんべん

龍大に戻ってグループワーク

各地をまち歩きした3グループが龍谷大学で合流。気づいた大津の特色などや聞いてきた声について、グループごとに模造紙に整理していきました。

グループごとに発表

まとめた模造紙を使って各グループ10分ずつ発表しました。発表の概要は下記のとおり。



ひとグループの発表

- ・ この町を選んだのは様々な層の人の話が聞けるから。
- ・ 歩いてみて、古い町家の隣にビルなど、今と昔が混在していると思った。それを生かしていくのが良いのでは？
- ・ マイママhouseではNPOだからできる手の届かない細やかさ、熱心さ。「ここへ来たら救われる」というクチコミでの広がり。
- ・ 親子連れに人気の「ゆめっこ」。「いずれはゆめっこがなくても地域力で子育てを」という所長の言葉が印象的。



まちグループの発表

- ・ 坂本の旧竹林院、建物自体は新しく歴史をあまり感じられなかったが庭がきれい。地元の人もよく来るらしい。
- ・ 石畳の道は風情あり。コンビニがまちなみに合わせて茶色になっているのにびっくり。
- ・ 石山商店街はイメージと違い閑散としていた。商店街のパンフレットが誰向けか分からない。もっといい手段ないか？



自然グループの発表

- ・ 自然豊かな志賀地域を選んだ。歩く前は店などを作ってもっと栄えればよいのではと思っていた。
- ・ 水が透き通る近江舞子水泳場など、景色がよく癒された。
- ・ 地域の農作物等を使ってお菓子などを製造販売するほっとすていしょん比良では、「自然を生かすのもこわすのも地元民」「ないものねだりよりもあるもの探しをする」という言葉が印象に残った。
- ・ 本当に何もなかったが景色が特産物とも分かった。私たちが思っていたよりそのままでもいいんだと気づいた。

脇田教授からの講評

発表後、本会議のアドバイザーである脇田教授より、講評をいただきました。

- ・ ひとグループではいい出会いがあった。お金でサービスを買う時代だが、“ふかふかの土づくり”が大事。社会の土台のふかふかのところを豊かにしていきたい。
- ・ どうすればデザインできるか。
- ・ 自然グループでは地域の再評価が大事と聞けた。大津は素敵なものがいっぱいあるのにミスマッチになっている。
- ・ まちグループの歩いた石山商店街は活気がなく見えたかもしれないが頑張っている商店街でやる気をもって人がたくさんいる。

おおつ未来まちづくり学生会議

第3回会議 開催報告

開催概要

日 時： 2014 (平成26) 年10月17日 (金) 10:00~17:00

場 所： 龍谷大学REC211会議室

参加者： 龍谷大学瀬田キャンパス学生9人、龍谷大学 社会学部
脇田健一教授、大津市職員 (企画調整課、都市計画課)

テーマ： おおつの“いいね”を考える

第3回会議の内容

- ・ 市職員 (企画調整課) より、今後に向けて説明
- ・ 各グループで次回の発表に向け、これまでの振り返りと課題整理、発表に向けた準備
- ・ グループごとに進捗状況の発表

次回の日程について

いよいよ次回11月18日 (火) に、未来の大津についての発表をグループごとに行います。発表は14時から、市役所の別館大会議室で公開して行います。

内容

第3回会議では、グループに分かれて前回の「まち歩き」で気づいたことや、これまでの勉強の成果を振り返るところから始めました。前回作った模造紙を見ながら、あらためておおつの良いところ、悪いところを整理。まち歩きで聞いた声や気づいたことなどをもとに、どんな大津なら住みやすいのか、自分たちが30才になった頃にどんな大津になって欲しいか、などの視点に立ち、次回の未来の大津についての発表に向けて、話し合いを進めました。方向性が見えてきたグループは、発表用のパワーポイントの作成に着手。途中、脇田教授のアドバイスも受けながら、未来の大津をあらわすキャッチフレーズや、具体的なイメージなども考えていきました。

最後には、各グループでまとめた成果について簡単に発表。まだまだ最後の詰めまでは行き着かなかったのが、グループごとに発表に向けた準備を進めることになりました。

次回、第4回の「おおつ未来まちづくり学生会議」は11月18日 (火) です。未来のおおつについての発表を、グループごとに市役所で公開して行います。

当日の様子

企画調整課職員からの話

- ・ 前回のまち歩きから1ヶ月以上間が空いたこともあり、市職員からこれまでの振り返りと、今日の進め方について説明。
- ・ これまでの学びをもとに、未来のおおつがどんな風になってほしいか、グループで提案をまとめるにあたってのポイントを学生に伝えます。





各グループで話し合い

自然グループ



- ・ ホワイトボードを使って整理。志賀地域をまち歩きした際に聞いた声をもとに、整理していくようです。
- ・ 話し合いを進める中で、まち歩きの際に聞いた『あるもの探し』という言葉から、今あるものを大切に、「豊かな自然」を生かしたまちづくりに向けて話し合いました。

まちグループ



- ・ 前回のまち歩きから現状分析をし、大津市にある魅力とは何か、また、強みをどのように生かしていくかについて、話し合いました。
- ・ まちのにぎわいに目を向ける中で、「つながり」をキーワードとし、『時代を超えたつながり』、『世代を超えたつながり』など、いくつかの角度(方針)からアイデアを創出し、大津市の目指すまちの姿、大津市の将来像について意見を出し合いました。

ひとグループ



- ・ 前回のまち歩きを踏まえつつ、メンバーが休日に大津を歩いたり、出身地のまちと比べたりした結果を持ち寄りしました。
- ・ まちの中に学生を見なかったことが気になる、年配の観光客が多かったことや、住んでいる人も高齢者が増えていることが気になる、という意見も出てきました。
- ・ 大津のひとが活気づくには…ということを中心に話し合いが進んでいきました。

最後に進み具合を発表

グループごとに、今日の進み具合を自席で発表しました。他のグループがどんな発表をするのか、みんな興味深く見ていました。

自然グループ



まちグループ



ひとグループ



おおつ未来まちづくり学生会議

第4回会議 開催報告

開催概要

日 時： 2014 (平成26) 年11月18日 (火) 14:00～17:30
(リハーサル・準備10:00～14:00)

場 所： 大津市役所別館大会議室

参加者： 龍谷大学瀬田キャンパス学生9人 (3人欠席)、龍谷大学 社会学部 脇田健一教授、龍谷エクステンションセンター、大津市職員 (企画調整課、都市計画課)

来聴者： 職員以外6名、職員約40名

テーマ： 理想のおおつをつくろう!

内容

- ・ 市長開会挨拶
- ・ これまでの振り返り
- ・ 学生の発表・質疑応答
 - (1) 「しが」を広めよう
 - (2) 20年先のちょうどいい大津を目指して
 - (3) “女湖 (めこ) プロジェクト”
- ・ 総評
- ・ 本会議アドバイザー
龍谷大学社会学部 脇田教授より
- ・ 修了証交付式

内容

7月に始まった当会議。これまで3回の会議を経て、学生が大津を知り、学び、理想の大津の姿について考えてきた成果を、市職員達を前に発表しました。3グループとも直前まで発表の練習を行い、まちを歩き、感じて考えてきたことを、自分たちの言葉で、気持ちをこめて発表しました。

来聴者も熱心に耳を傾け、質疑や意見の飛び交う、熱気ある発表会となりました。最後に学生は修了証を受け取り、会議は幕を閉じました。



当日の様子

リハーサル

- ・ まずは、別会場にて発表のリハーサル。前回の会議以降、各グループで準備をしてきました。
- ・ 市職員や脇田先生から最後のアドバイスを聞きながら最後まで改良を加えつつ、昼休みを削ってぎりぎりまで練習した学生もいました。



開会

- ・ 会場は50名ほどが来場。まち歩きでお世話になった北比良グループの山川さんや、三井寺の広報の角さんもお越しいただき、発表会が開会しました。

市長より開会挨拶 大津市長より、発表会の開会にあたり挨拶を行いました。



- ・ 学生の皆さんに意見をもらえる貴重でありがたい機会。
- ・ 滋賀県は人口当たりの大学生の数が全国3位。これからの総合計画は長い期間を想定しており、若い皆さんの将来に非常に関わってくる計画。
- ・ 学生の皆さんの視点の意見をもらい、計画に反映していきたい。

これまでの振り返り

- ・ 企画調整課より、これまでの活動について写真を見てもらいながら概要を説明。
- ・ 7月以降、まち歩きを含めた3回の会議のほか、グループ別に何度も集まり今日の発表の準備をしてきました。

学生の発表・質疑応答

- ・ 1グループ20分程度でパワーポイントを使った発表を行った後、会場からの質問や意見を受け付けました。
- ・ 各グループの発表はP.12以降に掲載しています。





中野政策調整部長より総評 (各グループの総評はP.12以降に掲載)

- ・ 私は大津が大変好き。日頃暮らすには買い物、交通にまず不便はない。災害からも安全、安心。医療、教育、福祉についても健康に暮らせる。琵琶湖、河、里山など自然が身近に豊富であり快適に住める。環境のまちの4要素というのは、安全、衛生、健康、利便・快適である。4要素は大津に揃っていると自負している。ここに、提案のように、住む人が心を通わせて明るい気質で誇りを感じて暮らしていけば非常に高質なまちが作り上げられるのではないか。そのことにより大津というまちづくりのプライオリティは自然に決定されていくと思うし、若者、子育て世代を含めて自然と人が移り住んで活性化していくと願いたい。
- ・ まちには何よりも住む人の心を大事にしたいと思うし、それがまちの品格を決定していくと感じる。
- ・ 皆さんの長期にわたる取組みの結果を是非とも活かしてまいりたい。
- ・ まずは学生、脇田先生に、協力いただいたお礼を述べる。若い新鮮な自然な発想で素晴らしい発表、提案、数々のキーワードを頂戴し大変ありがたい。
- ・ 皆さんは大津ファンになっていただけたか?これから多くの方に大津の良さを語っていただけるか?今大津の観光ではこのことを大切にしながら進めているのでどうぞよろしくお願したい。

本会議アドバイザー 龍谷大学社会学部 脇田教授より

- ・ 学生に成長の機会を与えてくださりお礼を申し上げる。
- ・ 今回参画している学生達は龍谷大学で、大津エンパワメントや、お野菜大学、おにぎりプロジェクト等地域と連携していくプロジェクト等の中で自分を鍛えてきた学生。
- ・ 3チームの話聞いて、学生が大津市の多様性に注目していることが1点挙げられる。多様性は作るようになってきたのではなく、琵琶湖があってその付近で合併していった偶然の結果として多様性が生まれたもの。
- ・ よく中心市街地がないとかネガティブに捉える意見もあるが、大津市にとって多様性は財産だと思う。
- ・ もう一つ、学生は、多様性が相互を補っていく、そういう関係を作ることの重要性を指摘していたと思う。
- ・ 大津市内の例えば比良と中心市街地、農村部と都市部の相互的な関係だけでなく大津のまちなか和大津の外との関係、いろんな意味で相補的な関係のなかで相手を鏡にして自分の持っているものの価値を知るといような話が、どのチームにも共通して出ていたと思う。
- ・ ちょうどいいとか今のままでいいとか、京都や大阪の大都市のそばにあり、今まではネガティブに捉えてきたが逆にそういう所にあるがゆえのちょうどよさ、面倒くさいことは京都、大阪に背負ってもらって、手触り感のあるヒューマンスケールのちょうど良い大津の魅力を大切にしていってほしいのではというのが学生の提案だったと思う。
- ・ 変に商業化されない、変にシステム化されない、変にマニュアル化されない、そういう近い人間関係のなかでの、皮膚感覚的な手触り感を残したような関係がこの地域のなかにずっと残って欲しい。市民憲章にある「あたたかい気持ちで旅の人をむかえましょう」は、今風に言えばそういうことかと思う。
- ・ 多様性、相補的な関係、それは市域のなかの相補的な関係、市の外と内の相補的な関係、そういうものの中でそれぞれのヒューマンスケールの良さを大切にするようなまちづくり、その中で良い関係を作っていく、それが来たる超高齢化社会に対して持ち堪えながらうまく着陸していくための1つの基盤になるのではと思う。
- ・ 最後のチーム(ひとグループ)は必然的に超高齢化社会になるにも関わらず、若い人を呼び込み、若者の魅力発信、それも女性を情報発信にして応援していくと、活躍が目につれて多くの人が大津の魅力に気づくというアイデア。
- ・ ゲストハウスについて、地元の大学が関わり、農産物とか湖魚とか総合的な関係をつくっていけば情報発信も可能だと思う。学生と市役所職員と地域の人が連携していくような。
- ・ ちょうどいい大きさの、ちょうどいい都会にも近く完全な過疎地域でもない、こういう所の魅力を認識してこれからの大津を更に良いまちにしていきたい。龍谷大学も地域に貢献する大学として頑張っていきたい。



修了証交付式

学生に、修了証書を交付しました。本当にみんな、熱心に最後までよく頑張ってくれました。



閉会

- ・ 閉会后、学生と関わってきた職員で感想や意見を話し合いました。
- ・ 最初の頃と比べて、大津の魅力がたくさん分かってよかった、という学生がたくさんいました。大津にできれば住みたい、という学生も。
- ・ 発表をまとめるには時間が短かったという意見も出ました。
- ・ 市職員も学生と取り組むことにより、初心に戻って大津の魅力をあらためて探し、どんなまちにしたいかを共に考えることで、新たな気づきをたくさん得ることができました。
- ・ 今日で学生の活動はひと段落しますが、事業支援を受けています、「環びわ湖大学・地域コンソーシアム」において、12月20日(土)に報告会を行います。



学生の発表・質疑応答 01

「しが」を広めよう

「自然」をテーマにして集まったグループ グループ Afternoon

まち歩きと考察

- ・ まち歩きは、自然豊かな旧志賀町を選択。近江舞子水泳場 → ほととすていしょん比良 → びわ湖パレイの順で巡った。
- ・ 近江舞子水泳場の琵琶湖の水の透明さ、ほととすていしょん比良から見る自然豊かな景色の素晴らしさ、びわ湖パレイから見るびわ湖の雄大さに感激。
- ・ ほととすていしょん比良で味噌や夏みかんマーマレード等の特産品を作り販売されている、北比良グループ山川さんや、びわ湖パレイの広報 柿本さんのほか、びわ湖パレイに来られている方へインタビューをした。
- ・ インタビューの中で印象に残った言葉がある。「他の地域の人からの声、評価によって誇りが生まれる」「自然を生かすも殺すも地元民」「ないものねだりよりあるもの探し」「不便も特徴」「今の大津がちょうどいい」「景観も特産物」
- ・ まち歩きをする前は、交通手段が少なく不便なため、新しい店などを作り、都会のような賑わいを求めているだろう、とイメージしていたが、まち歩きを終えて、今の大津に満足されている人が多く、大津は今のままで良い、と感じた。
- ・ 山川さんのように、不便も特徴、と言い切れるのは地元には誇りがあるから。大津市をもっと好きになる人が増えると大津市がもっと良くなるのでは。
- ・ 地元の人にとっては当たり前な景色や自然が、地元以外の人々の声を聴くことで、地元住民は「自然に恵まれていることが当たり前でない特別のことである」と再認識し、地元愛が増して誇りが生まれ、より自然が守れるのではないか。



提案 3つの提案をする。

1. 外からの声を住民に届ける
例えば広報おおつに“観光客の声”を掲載し、地元の人が気づかない良さを再認識する。
2. 中身の質を上げながら今の活動を継続していく
長く地域で働き活動を継続する⇒地域への愛着や誇りが生まれる⇒更に活動や地域を良くしていきたいと考える⇒活動に工夫を凝らし、内容が濃くなっていく。
3. 活動を大津市内で共有する
大津は南北に長いので、各地域の活動を共有することで、新たな魅力を知り、活動の充実に繋がる。
近江八景ならぬ「大津八景」をつくり、多くの人に景観や景色の素晴らしさに気づいて欲しい。私たちは八景のうち四景を提案したい。「龍谷大学からの夕日、近江舞子周辺の琵琶湖、蓬萊の棚田、琵琶湖疏水の桜」

私たちの3つの提案を実現すると、「今の自然は保たれたまま、より輝きを増す大津」になる。



質疑応答・意見より (ほととすていしょん比良の山川さん)

- ・ 思いをしっかり受け止めていただけた。
- ・ 大津は細長く個々に特徴があるのでそれぞれ磨きをかけて繋いでいければより魅力的になる、という提案は本当にそう思う。

各グループの発表について (中野政策調整部長より総評)

- ・ 大津の自然を見ていただくには比良は大変素晴らしい地域であり、インタビューされたのも素晴らしい方たちで、ベストな選択をされたと思う。
- ・ 都会から来られた方は都合の良いことをまちに求めがちだが、皆さんの発表にあったように、大切なのはそれぞれの文化や自然に息付いたまちであり、それに触れること、そこに住む市民の方のまちを愛する声で印象を変えていくということを改めて勉強させていただいた。
- ・ 比良の自然は提案のとおり大切に考えていくべきだし、次期計画について皆さんの思いを活かしてまいりたい。
- ・ 私のまちづくりの非常に参考にしている3つの保存の法則（環境学者イー・ピーワイス）を紹介したい。「選択肢の保存」「質の保存」「アクセスの保存」これは、今の世代が次世代に対して質を落とさずに引き継がなければいけないのは何か。まちづくりをするときに今コンプリートしてしまうと次の方が選択肢をなくしてしまうのでそれはだめであり、アクセスする権利や選択する権利も引き継がなければならないということを考えながら、まちづくりを考えていかねばならないことを、改めて感じた。

発表

「しが」を広めよう

おおつ未来まちづくり学生会議
Afternoon
しげちゃん

目次

1. チーム結成
2. 大津のいいね!
3. まちあるきまでの経緯
4. まちあるき
5. まちあるきのまとめ
6. 提案
7. 未来の大津

1. チーム結成

- * 滋賀県といえば自然だったので 一山・川・琵琶湖がある
- * 大津市の自然を知りたかったから
- * 龍谷大学が森に囲まれていて 自然に興味を持ったから

2. 大津のいいね!

3. まちあるきまでの経緯

- * 自然が豊かな旧市街町を選んだ
- ★ 歩く前のイメージ
 - ・ 店などを作り、都会のようにぎわいを求めている
 - ・ 自然豊か=交通手段がなく不便

まちあるき (9月12日)

引田氏集合
運動会前到着、水泳場見学
ほっとすていしょん比良
びわ湖パレイ

インタビュー

大津市役所 商工労働政策課 富田さん (道の駅 蛸子の郷 担当)

- * 地元の人に道の駅を運営してほしい
- * 地味どうしを繋ぐきっかけにしたい

北比良グループ 山川さん (ほっとすていしょん比良)

- * 食事のいいしさが景色で密着する
- * 活動を長く続けてきた誇りがある
- * ないものねだりよりあるもの探し
- * 比良の不便も特徴である
- * コンビニやチェーン店は少ない

北比良グループ 山川さん (ほっとすていしょん比良)

- * 食事のいいしさが景色で密着する
- * 活動を長く続けてきた誇りがある
- * ないものねだりよりあるもの探し
- * 比良の不便も特徴である
- * コンビニやチェーン店は少ない
- * 景色も特産物

柿本さん(びわ湖パレイ)

- * 今の天津がちょうどいい
- * 拡大化より中身の質の向上
- * 世代を超えて伝えられる天津の魅力
- * 住みやすい環境にする 転入者が増え、活性化が望める

聞き取り調査

Q大津といえば?
A.琵琶湖、大津駅、比良山、石江獅子水泳場、びわ湖パレイ

Qあればいいと思う設備・場所は?
A.トイレ、宿泊施設、飲食店
このままでいいという意見もあった

大津の人も、大津の人も、同じ意見だった。

5. まちあるきのまとめ

- * 今のままでよくて、地元の方も訪れた方も変化を求めている
- * インタビュー、聞き取り調査を通して、私たちが思っていたより、そのままでいいんだと気づいた。

まちあるきをする前のわたしたちの意見とは正反対だった

- * 物の地域の人からの声・評価によって語りが生まれる
- * 「自然を生かすも殺すも地元民」
- * 「ないものねだりよりあるもの探し」
- * 「不便も特徴」
- * 「今の天津がちょうどいい」
- * 「景観も特産物」

自然を守る → 自然がすばらしいと気づかないと守れない → 自然を守る

外からの声 → 変化 → 誇りが生まれること → 自然も守れる

6. 提案

- 外からの声を住民に繋げる 市一住民 街一広範囲おつに「観光客の声」を入れる
- 中身の質を上げながら 市としての活動、住民の活動 長く続けることで生まれる誇り
- 大津市内での共有... 大津八景 大津市と近隣地域をつなぐ

大津八景

- 一、石江獅子の昼静画
- 二、農業の朝日
- 三、龍谷大学からの夕日
- 四、琵琶湖鏡水の朝

7. 未来の大津

今の自然は保たれたまま、より輝きを増す大津になる

ご清聴ありがとうございました

学生の発表・質疑応答 02

20年先のちょうどいい大津を目指して

「まち」をテーマにして集まったグループ グループ まち

まち歩きと考察

- ・ まち歩きは、比叡山坂本で滋賀院門跡と旧竹林院、石山で石山商店街を歩いた。
- ・ 滋賀院門跡ではガイドの非常に丁寧な説明で拝観が楽しくできた。旧竹林院では観光客だけでなく地元住民の憩いの場にもなっており、地域住民と観光客の距離が近いと感じた。一方、ネームバリューが京都に劣ることや、他の観光地への交通アクセスが京都ほど良くないという弱みも分かった。
- ・ 石山商店街では、夜市の開催やサロンの開放など、お客さんを取り込む工夫がされているのが魅力。一方、弱みとして駐車場や駐輪場がなく利用しづらい点やマンションなどの新しい

住民が取り込めていないのでは、と思った。

- ・ まち歩きを通し、大津は京都ほど観光客が溢れておらず、大阪ほど都会でもなく、しかし人がいないわけでもなく、田舎でもない、つまり暮らしと観光がうまく調和したまちであり、京都や大阪へのアクセスに優れているので大津だけでは足りないものをうまく補えていると感じた。
- ・ 大津は程良い活気と環境が整っている「ちょうどいいまち」であり、これが京都や大阪にはない大津の強みで、これから先も更に磨いていくべきもの。

提案

- ・ 10年、20年後も「ちょうどいい」ために、「高齢者も活力に満ちた生涯現役のまち」「京都とは違ったアピールポイント」「新しい住民の地域への定着」が必要。
- ・ 比叡山坂本では、見る観光だけでなく、「一緒に体感する観光地」を目指してはどうか。地域の知識人と関わりを持ち、深く魅力を知り「するめ」のように味わい深く長く楽しめる観光地へ。
- ・ 地域住民にとっては観光客と触れ合う中で改めて地域の愛着や誇りが持て、知識人として高齢者が活躍することでまちに活気が出て、更に魅力的な観光地となり、大津のコアなファンが獲得できる。
- ・ 石山商店街では、商店街を地域の繋がりを創り出す場になる

ように、サロンを活用してはどうか。人の繋がりや文化がある独自性を持つ地域であれば愛着がわく。次代を担う子どもが地域へ愛着を持つためにサロンを子どもの集う場にする。

- ・ 子どもに地域との繋がりができ、子連れで来た親がついでに買い物し、商店街に賑わいが出ることで新しい住民も顔を出すことになる。このサイクルが回るとまちがどんどん元気になる。
- ・ 以上の「高齢者が活躍できる場」と「つながりを創り出す場」の2つが実現することで10年、20年後にはみんなが生き生きと暮らせるまち、地域に愛着や誇りを持って暮らせるまち、住民同士の繋がりのあるまち・・・つまり、程良い活気と環境をもつ、ちょうどいい大津に繋がる。

質疑応答・意見より



(観光振興課職員) 地域の住民と観光客が相乗効果でよりよい観光地になるという点で、坂本で感じた「人との距離が近い」というのはどのような体験で感じたのか。

(学生) ガイドが本当に丁寧に一から説明して下さり、こういう観光のスタイルは京都ではしたことがなく新鮮だった。史跡なども魅力だが「人」が魅力だと思った。



(商工労働政策課職員) 商店街を子どもが集まる場にするための具体的なイベント等のアイデアはあるか。

(学生) イベントというより、学校帰りに「あそこには〇〇さんがいるから遊びにいこう」という自然に集まる場になれば。そのためのきっかけとして学校の授業で商店街を訪れて紹介するなどしてもよいのでは。

各グループの発表について (中野政策調整部長より総評)

- ・ 身近な素晴らしいキーワードがいただけた。「観光客があふれていないし都会ではないけれども人がいないわけでもなく田舎でもない、暮らしと観光の調和したちょうどいいまち」「一緒に体感することで、サイトシーイングだけでなく、するめのような味わい深さのある観光」「商店街はつながる場」
- ・ 自然グループにも通じるが、大切なのはまちを愛する住民の存在、おもてなしの心と行動、というのを改めて学ばせていただいた。
- ・ 私の生まれた当時の大津の商店街は非常ににぎわっており、子どもながらの印象では、まさに繋がっていた。店主の面倒見のよさや、おせっかいや、心の行き交うサービス。それらは観光にも共通する。

発表

20年先の ちょうどいい大津を目指して

班員
黒山、桐畑、清水、松島、山田

はじめに

- わたしたちの部は大津市出身がいない。

↓

- 先入観なく感じることができる

まちあるき

- 比叡山坂本
 - 滋賀院門跡
 - 旧竹林院
- 石山
 - 石山商店街

比叡山坂本で感じた魅力

- 滋賀院門跡
 - ガイドがとても丁寧
- 旧竹林院
 - 観光客だけでなく地域住民も訪れる
- その他
 - 史跡や自然が豊富で景観が統一

比叡山坂本で感じた弱み

- ネームバリューで京都に劣る
 - 多くの人は京都に流れてしまう
- 交通アクセスが京都より悪い
 - 他の観光地まで電車を利用しないと駄目

石山で感じた魅力

- 石山商店街
 - お客さんを取り込む工夫
 - 夜市などの企画
 - 惣菜やカメラの設置、サロンの特別

石山で感じた弱み

- 駐車場や駐輪場がない
 - 少し距離があると訪れにくい
- 新しい住民の取り込み
 - スーパーなどに押されている

まちあるきで感じたこと-その①-

	比叡山坂本	石山商店街
魅力・可能性	人の源流感 豊富な自然や史跡	様々な取り込み
弱み・課題	ネームバリューで劣る 交通アクセス	新住民の取り込み 駐車場や駐輪場

まちあるきで感じたこと-その②-

- 京都ほど観光客が溢れていない
- 大阪ほど都会ではない

しかし…

- 人が居ないわけではない
- 田舎でもない

つまりは…

- 暮らしと観光が上手く調和したまち
- 京都や大阪への交通アクセスに優れている

・大津＝「ちょうどいいまち」
この強みを活かしていくべき!!

10年後、20年後の「ちょうどいい」ために

- 人口の減少と高齢者の増加
 - 高齢者も活気に満ちた生産現場のまち
- 京都にネームバリューで劣る
 - 京都とは違ったアピールポイント
- 新規住民のまちへの定着
 - 新しい住民の地域への愛着

比叡山坂本から

- 人の距離が近いことが魅力!
- 「見る観光地」ではなく…
「一緒に体感する観光地」へ!!

一緒に体感する観光地とは

- 「見る観光地」
 - 観光客が訪れて自当での体験などを見て楽しむ観光
- 「一緒に体感する観光地」
 - 自当での体験などを見て楽しむだけではなく

地域の知識人と関わりを持つ観光!

それによって…

- 「見るだけ」より深く地域を楽しめる!



のような観光!!

地域住民にとって…

- 観光客と触れ合う中でまちのよさを再認識!
 - 改めて地域への愛着や誇りをもてる!
- 地域の知識人＝お年寄りが活躍できる場!
 - まちの活気につながる!
 - 観光地として更に魅力的に!



観光客 ↔ 地域住民

観光客の観光体験
地域住民の再認識

まとめ

- 一緒に体感する観光地によって…
 - 大津ならではの観光!(京都との差別化)
 - コアなファン層の獲得
- 観光客と地域住民のよい相乗効果!
 - 観光客「まち」の魅力を実感まで体感できる
 - 地域住民「まち」の魅力を再認識できる

石山商店街から

- 高齢者の増加
 - 地域住民同士のつながりが重要
 - 商店街が大きな役割
- サロンを活用することで活性化
 - 子どもを集まる場にして地域のつながりへ

なぜ子どもなのか

- 次代を担う子どもに地域への愛着を
 - ファスト風土的な地域⇒愛着△
 - 独自性を持つ地域⇒愛着○
- 親も呼び込みやすい
 - 子どもをつれて買い物に
 - 明るいつながりをつくれる
 - 新しい住民も訪れやすくなるかも!

子どもを集まる場をつくると…



子どもが集まる場

お年寄りも活躍できる場

新住民

地域からの誇り

観光客の再認識

まとめ

- 子どもが集まる場にする
 - 地域でのつながりから地域への愛着へ
 - 地域ならではの思い出
 - 子どもの明るさで商店街を明るく
 - つつい訪れたいくなる雰囲気
 - 買い物をするだけの場ではなく…

「つながりを創り出す場」へ

これらが実現して…

「お年寄りが活躍できる場」
×
「つながりを創り出す場」

10年後、20年後に…

- どんな年代の人でもいきいきと暮らせるまち…
- 地域に愛着や誇りを持って暮らせるまち…
- 住民同士のつながりがあるまち…

・「ちょうどいいまち大津」に!!

ご清聴ありがとうございました

学生の発表・質疑応答 03

めこ女湖プロジェクト

「ひと」をテーマにして集まったグループ グループ human

まち歩きと考察

- ・ まち歩きは、膳所駅⇒旧東海道を歩く⇒マイママhouse⇒子育て総合支援センターゆめっこ⇒大津市立図書館⇒三井寺の順で巡り、なるべく多くの所に行き、様々な年齢層の人と話すことで大津への理解を深めようとした。
- ・ 古い町並みや史跡などから歴史的な魅力を感じるとともに、子育て支援に熱意を持つ職員の話聞き、自分が子育て世代になれば心強いだらうと思った。
- ・ 大津について大津市民にインタビューすると「メインとなる名所がない」「インパクトが欲しい」「若者に活気が欲しい」とマイナスの意見が目立つ一方で、県外の観光客に聞くと「自然に溢れていて落ち着きがある」などプラスの印象が多かった。
- ・ まち歩きや休日に出かけた際に、若い人をまちで全然見かけなかった。
- ・ 大津は、自然豊かで落ち着きがあり歴史的な魅力で高齢者の心を掴む。子育て支援が充実しており子育て世代にも魅力がある。一方、その魅力は若者には分かりづらく、若者へのウケが良いものがなく若者の活気がないことに繋がるのでは。
- ・ 学生12人のうち私たち2人だけが大津市民。大津は住みよいが、全国の人に伝えられる大津ならではのアイデンティティ、大阪や京都との差別化できるものが欲しい。

提案

- ・ 「Otsu Endless Discovery」…Discoveryの語源は覆っているものを取り外すこと。世代、地域の差を取り払えば新たな発見、発展がエンドレスにできる。全国に大津の良さを発信、共有することで若者に活気が生まれる。
- ・ そこで新たに「女湖(めこ)プロジェクト」を提案する。釣り、ボート、カヌー、サイクリング、研究、写真、音楽、湖魚、アート、ランニング、近江八景など琵琶湖に関する活動は多々あり、そうした活動をする女性を応援し、女性にターゲットを絞って魅力を発信していく。
- ・ 県外から活動に来る人は、安い宿泊施設に泊まりたい、同じ趣味の人と交流したいという思いがある。
- ・ そこでゲストハウスを提案する。京都には多くあるが大津にはほとんどない。安く素泊まりでき、宿泊客同士の交流が盛ん。利用は20~30代の若い世代が多く外国人もよく利用。
- ・ ゲストハウスにプラスしたら面白いことができるのでは。利用者にはボートレンタルの割引をつけるとか、手ぶらで来てもカメラや自転車を貸し出すとか、フォトコンテストの開催やアート展など開催し気軽に立ち寄る場所にするなど。素泊まりなので近隣の飲食店と提携も可能。
- ・ こうして県外からの若者の受け皿を作り、環境を整えると県外からもっと人が来る。古き良き物は若い世代は理解しない人も多い。新たなツールで攻めていく。大津特有のもの、特に琵琶湖でイノベーションを起こしていく。
- ・ 若い人が集まれば若い人に合わせた店も増えるし、活気が出てまちが若返っていく。一言でいうと「都市のアンチエイジング」である。

質疑応答・意見より

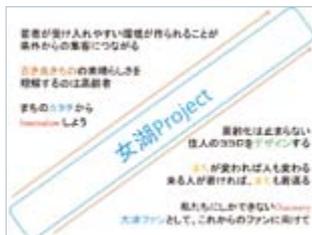
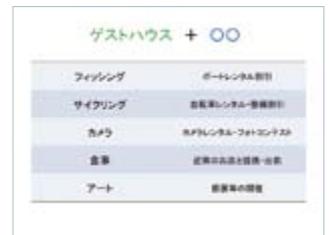
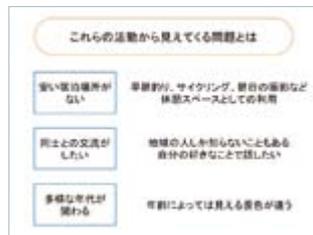
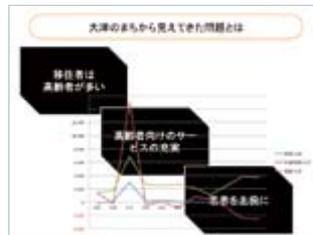
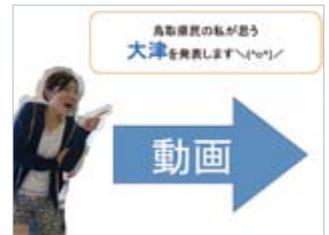
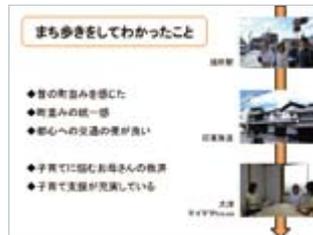
来聴者 どのグループの発表もそうだったのばかり。中でもゲストハウスは面白い。東海道の町家と湖岸を連携させていくような観光開発が出来ると良い。

学生 琵琶湖のすぐそばでボート・釣り・近江八景・ランニング用のハウス、駅と琵琶湖の間に地域の人と交流できるハウスのそばにアートや音楽に関するハウスがあると良いのではと思う。

各グループの発表について (中野政策調整部長より総評)

- ・ 高齢化することでまちの活気が低下するのではという懸念がテーマとして取り組まれた。
- ・ 若者の活動、エネルギーがまちのエネルギーを活性化させる、若者の特に女性に焦点をあててまちづくり事業を展開することの大切さ、まちが変われば人も変わる、来る人が若ければまちも若返ると非常に端的にまとめていただいた。
- ・ そこにゲストハウスや、組み合わせる特典ポイントや大津に引き寄せる取組みというもの大切さを提案いただけた。
- ・ このグループの積極的な提案に、始めの2グループのそこに住む人の心、誇り、おもてなしの精神、恵まれた素晴らしい大津の自然というのを組み合わせることで非常に充実した施策提案を我々も考えていけるのではないかと考える。

発表



環びわ湖 活動奨励賞受賞

2014年12月20日(土)、環びわ湖大学・地域コンソーシアムが主催する「環びわ湖大学地域交流フェスタ2014」が開催され、大津市と龍谷大学とが連携した「おおつ未来まちづくり学生会議」による取り組み『理想の大津つくろう～大学生が考える未来の大津～』が、特に優れた取り組みをしている発表に贈られる“活動奨励賞”を受賞しました。

本フェスタは、環びわ湖大学・地域コンソーシアムが支援する「地域の課題に大学と地域が協働で取り組む活動」や「大学が自主的に取り組む活動」、「学生が滋賀県内でフィールドワーク・研修を行う学生支援事業」の報告会として開催されました。

2014年度のフェスタでは、龍谷大学から、大津市と本学の取り組みである『理想の大津つくろう～大学生が考える未来の大津～』（地域課題対応型）と、守山市と本学の取り組みである『守山プロジェクト:話し合いがまちを変える!守山市市民参加と協働による骨太の地域づくり参画プログラム』（自主活動型）の2つの発表を行いました。

『理想の大津つくろう～大学生が考える未来の大津～』の発表では、大津市のまちづくりにとって重要な計画となる「大津市総合計画」を策定するにあたり、脇田健一本学社会学部教授のアドバイスのもと、龍谷大学生12名と大津市職員の方が共にワークショップやまち歩きを通して、大津の魅力や課題を探り、未来の大津のまちづくりについて考え、提言するという取り組み成果を発表しました。当日のプレゼンテーションは、大津市政策調整部企画調整課の龍池和隆氏、古田陽子氏、龍谷大学社会学部コミュニティマネジメント学科4回生の清水一宏さん、同2回生の堀部亮太さんの4名で行い、限られた時間の中で半年間の取り組み成果を伝え、プレゼン後の質疑応答でも活発な意見交換が行われました。



「理想の大津つくろう～大学生が考える未来の大津～」の発表の様子



表彰式の様子



左から、清水さん、堀部さん、龍池さん、古田さん



脇田教授(左)と発表者

(龍谷大学ホームページより)

越直美大津市長 ランチミーティング

2014年12月22日(月)、「おおつ未来まちづくり学生会議」のメンバーである龍谷大学の学生たちが、大津市役所を訪問し、越直美大津市長とのランチミーティングを実施しました。

本会議は、大津市のまちづくりにとって重要な計画となる「大津市総合計画」を策定するにあたり、本学社会学部の脇田健一教授によるアドバイスのもと、龍谷大学生12名と大津市職員の方が共に、ワークショップやまち歩きを通して、大津の魅力や課題を探り、未来の大津のまちづくりについて考え、提言を取りまとめる活動で、これまでに以下のような活動を行いました。

実施日

- 第1回 7月10日(木) テーマ“大津を「知る」”
- 第2回 9月12日(金) テーマ“五感使ってまち歩き”
- 第3回 10月17日(金) テーマ“おおつの「いいね」を考える”
- 第4回 11月18日(火) テーマ“理想のおおつをつくらう!”
- 番外 12月20日(土) 環びわ湖大学地域交流フェスタ2014

開催場所

龍谷大学瀬田キャンパス、大津市役所、大津市内の各地域

学生会議では「自然」「まち」「ひと」の3つのグループに分かれて活動を行い、それぞれ3つのグループが、「『しが』を広めよう」(自然グループ)、「20年先のちょうどいい大津を目指して」(まちグループ)、「“女湖(めこ)プロジェクト”」(ひとグループ)と題した内容で、大津市への提言を取りまとめました。

今回のランチミーティングは、学生会議の取り組みに参加した学生たちが、越直美大津市長と意見交換を行う機会として実施されました。越市長からは、「どのグループも非常に面白く興味深い内容である」とのコメントをいただきました。また、ランチミーティングでは、今回参加した学生たちが取り組んでいる「お野菜大学」の活動や「大津エンパワねっと」の活動についても話題となり、龍谷大学の学生たちの取り組みに対して高い評価をいただきました。

「おおつ未来まちづくり学生会議」の活動はこれで一区切りとなりますが、龍谷大学と大津市との連携活動は今後も多方面に実施していく予定です。ぜひご注目ください。



(龍谷大学ホームページより)



龍谷大学
RYUKOKU UNIVERSITY



大津市